

スカパーJSAT、飯田ケーブルテレビと業務提携 業界初! ケーブルテレビ事業者に 多chサービスの“新たな選択肢”を



古屋金哉氏
スカパーJSAT(株) 執行役員常務
メディア事業部門 FTTH事業本部長

スカパーJSAT(株)(東京・港区、米倉英一代表取締役 執行役員社長)は今年8月3日、(株)飯田ケーブルテレビ(長野県・飯田市、原勉社長)との業務提携を発表した。スカパーJSATが提供するBS/CSパススルーによる伝送および視聴制御機能を活用し、飯田ケーブルテレビが自社エリア(長野県飯田市、下伊那郡)で展開する放送サービスにおいて、新たな方式を用いた多チャンネルサービスを提供するもので、11月からサービス開始となる。

この業界初の取り組みは、関係各社から高い注目を集めており、スカパーJSATにはケーブルテレビ事業者から多くの問い合わせが寄せられているという。同社執行役員常務の古屋金哉氏、事業企画チーム長の池田洋平氏に、立ち上げの経緯や運用方法、今後の展開等について話を伺った。



池田洋平氏
スカパーJSAT(株)
メディア事業部門 FTTH事業本部 事業企画部
事業企画チーム長

スカパー!とケーブルテレビ事業者 競合から協調へ

有料多チャンネル放送プラットフォーム「スカパー!」を展開するスカパーJSATとケーブルテレビ事業者は、そもそも多チャンネル加入を獲り合う競合関係だったと言えよう。

1990年代、ケーブルテレビ事業者は多チャンネルサービスを軸に事業を開始し、2000年代になるとインターネットや電話サービスを付加して加入を伸ばし、順調に成長を続けてきた。「スカパー!」は1996年に衛星多チャンネル放送「(前身の)パーフェクTV!」を開始、2002年開催の日韓サッカーW杯全試合中継で一気に加入者を増やし、以降、プラットフォームの統合、ブランド変更、チャンネルやコンテンツ、伝送方法等の拡充をしながら、加入を伸ばしてきた。

この約30年間で、ケーブルテレビは多チャンネル加入約800万世帯、「スカパー!」は約300万世帯と、それぞれに加入者を獲得し、合計1,100万世帯以上(2022年3月末現在)に多チャンネルを普及させてきた。

だが、ここ数年、インターネット/スマホの普及によるネット動画配信(OTT、YouTube等)の急激な伸びにより、多チャンネルサービスの加入に陰りが出てきている。かつてケーブルテレビの人気商品だった多チャンネルサービスは微減を続け、今や多くのケーブルテレビ事業者が、通信事業(無線等)、BtoBやBtoG、地域サービス等に事業の重心をシフトし始めている。

そんな中、新4K8K衛星放送ではセキュリティ強化のため、従来と異なる新CAS(ACAS)が採用され、ケーブルテレビ事業者も従来のC-CASからACASに切り替えるべく、局舎内のヘッドエンド(HE)の更新、加入者宅のセットトップボックス(STB)の交換といった新たな投資が課せられている。

岐路を迎えたケーブルテレビ事業者の多チャンネルサービスに対して、スカパーJSATは“新たな選択肢”として、「BS/110度CSパススルーを活用した多チャンネル連携」を提案している。その第1号となるのが飯田ケーブルテレビである。

C-CASからACASへの切り替えにかかる コスト負担を軽減

—飯田ケーブルテレビとの業務提携に至った経緯は。

古屋:2018年12月に新4K8K衛星放送がスタートし、左旋円偏波でのチャンネルも届けるため(左旋の直接受信の環境が整っていなかったため)、2019年9月に光回線での新4K8K衛星放送全チャンネル再送信サービスを開始しました。一方、飯田ケーブルテレビさんはNTT東日本と提携し、NTTの光回線による多チャンネルサービス「光キャストTV」を2016年4月から提供開始していました。そして、新4K8K衛星放送を導入するにあたって、当社のFTTHサービスに関心を持たれた飯田ケーブルテレビの原社長から接触いただいたのがきっかけです。

以来、飯田ケーブルテレビさんと情報交換を続けていなかで、ケーブル加入者にとっての多チャンネルサービスのプライオリティの変化、C-CASからACASへの切り替えとそれに伴うSTB交換の負担など、ケーブル業界が抱える課題が浮上してきました。

そこで、ケーブルテレビ事業者の皆さんが設備投資等のコストを抑えながら、多チャンネルサービスを継続できる新たな方式として、当社のFTTHサービスのシステムを活かしたBS/110度CSパススルー方式を提案し、飯田ケーブルテレビさんに採用いただきました。

—具体的にはどのような仕組みになるのでしょうか。

池田:従来は、番組供給事業者→多チャンネル配信事業者(*)・HOG→ケーブルテレビ局→加入者[STB]という流れですが、当社が提供する新たな方式では、番組供給事業者→衛星(BS/CS放送)→ケーブルテレビ局→加入者[STB不要]となります(右図参照)。

ケーブルテレビ事業者には、新たに衛星放送受信設備(BS/110度CS受信アンテナ)を設置いただく必要がありますが、FTTH回線によりパススルー方式で加入者宅へ配信しますので、テレビに直接繋ぐだけで多チャンネルサービスが視聴できるため、STBが不要

になります。また、ケーブルテレビ事業者にとって今後の必須課題となっているACAS対応HEへの更新もありません。鍵管理はスカパーJSATがバックヤードで行いますが、

多チャンネルサービスのメニューは ケーブルテレビ事業者が自由に設定

—加入者への多チャンネルサービスのメニューはどのように。

池田:BS/110度CSで配信されているチャンネルであれば、パッケージや料金等はケーブルテレビ事業者が自由に設定できます。従来のパッケージと同じ内容でも提供できますし、切り替えを機に新たなパッケージを組成していただくこともできます。ただ、BS/110度CS以外で配信されているチャンネルは、残念ながら提供できません。また、従来のSTB視聴時とチャンネル番号が変更になりますので、切り替え時に加入者にご説明いただく必要があります。なお、市販のブルーレイやHDでの録画が可能になるので、録画方法が格段に良くなりますし、テレビやレコーダーの付属リモコンだけで操作が可能になります。

—STBレスという新たなビジネスモデルについて、関係者の反響はいかがですか。

古屋:おかげさまで、ケーブルテレビ事業者/

個人情報には一切関与しないので、加入者にスカパーJSATの存在は見えません。なお、各番組供給事業者(サプライヤー)とは従来通り、ケーブルテレビ事業者とサプライヤーで直接契約していただきます。

(*)多チャンネル配信事業者:サプライヤーが提供するチャンネルを束ねて、HOG回線を通して、全国のケーブルテレビ事業者へ多チャンネルを配信する事業者のこと。日本デジタル配信(株)(JDS)とジャパンケーブルキャスト(株)(JCC)がある。

サプライヤー双方から高い関心が寄せられています。本サービスの発表後2カ月余で、30局以上のケーブルテレビ事業者からお問い合わせいただいております。日本ケーブルテレビ連盟の本部および支部へのご説明も含め、現在、全国各地に説明にうかがっているところです。規模の大小関係なく、STB交換を含むACASマイグレーションにかかる負担をできるだけ軽減したいというケーブルテレビ事業者は多いですね。

これからは、従来通りSTBによる高度化サービスで成長を目指すケーブルテレビ事業者と、STBの負担をなくして他のサービスに注力するケーブルテレビ事業者と、大きく二分するのではないのでしょうか。スカパーJSATとしては、自社のアセットを最大限活用して、STBレスのサービスを提供し、これまでケーブルテレビ事業者と共に築いてきた多チャンネルの文化を継続・発展させるべく、汗をかいていきたいと考えています。

■「BS/110度CSパススルー」による多チャンネルサービスの仕組み

